

Saitama
ITC



DX推進をめぐる動き、まとめ

2022年2月

埼玉県DX推進支援ネットワーク
コンテンツ協力：NPO法人埼玉ITコーディネータ

目次

1. DX推進をめぐる動き
 - 1) 抑えておきたいDXキーワード
 - 2) 事例紹介
2. まとめ

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード

RPA、AI、IoT、ロボット、VR/AR、DX人材育成

RPA：ロボティック・プロセス・オートメーション
「ロボットによる業務自動化」

人がパソコン上で日常的に行っている作業を、人が実行するのと同じかたちで自動化する。

単純作業をRPAで代替することで、従業員が利益に直結する仕事に割く時間が増える。

例) ファックスで受け取っている受注伝票を、人がパソコンに入力する。



OCRで紙を読み取りCSVデータとし、RPAを利用しエクセルに記載する。

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード
RPA、AI、IoT、ロボット、VR/AR、DX人材育成

AI : Artificial Intelligence (アーティフィシャル・インテリジェンス)
「人工知能」

ご参考：埼玉県AI・IoTプラットフォーム
<https://www.ai-lpwa.saitama.jp/>

判断材料となるデータをためていくことにより、人間よりも正確に業務処理ができる。業務の効率化によって労働力不足を解消できる。

例) 製造業の製造工程で不良品を判定する
観光業の需要予測により、飲食店の仕込み量を変える 等

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード
RPA、AI、IoT、ロボット、VR/AR、DX人材育成

IoT : Internet of Things 「モノのインターネット」

製造機器等のモノがインターネットと接続されることによって、これまでは把握が難しかったデータをサーバー上で、処理・分析等が可能となる。遠隔地の状況確認や検査・予知等にも利用できる。

例) 製造工程でチョコ停の回数を正確に把握し、ボトルネックを突き止める
遠隔地の施設管理で、故障を予知し、早めに保全を実施する。

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード
RPA、AI、IoT、**ロボット**、VR/AR、DX人材育成

ロボット：人の代わりにになり、重労働・危険作業・反復作業等を
自律的に行う装置

例) 産業用ロボットが、溶接、組み立て、輸送等を担う。
人形型ロボットがお客様と対話して案内する。

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード
RPA、AI、IoT、ロボット、AR/VR、DX人材育成

AR(Augmented Reality : 拡張現実)

スマートフォンのカメラ等を使用して実際に見えている景色にデジタル要素を追加し、現実の世界を広げる。

例) ジュエリー業で、お客様のスマホを利用して、アクセサリーを試着する。

VR(Virtual Reality:仮想現実)

VR：シミュレーションした環境に、自分自身が没入できる。

例) 海外旅行体験をVRゴーグルで楽しむ。

1. DX推進をめぐる動き

1) 抑えておきたいDXキーワード
RPA、AI、IoT、ロボット、VR/AR、DX人材育成

DX人材育成：DXを担う人材を社内で育成する
システム担当だけではなく、社内すべての業務が
DXに関わるにあたり、今までの教育体制とは異なる
育成プログラムが必要となる

社内OJTが難しいため、外部研修の活用が必須である。

例) 情報システム担当者、業務でDXを活用する担当者等
それぞれにあわせた外部研修を受講する。
中小企業の場合は1社単独では人数が集まらないため、外部の
集合研修に参加する。

1. DX推進をめぐる動き

2) 事例紹介

①活用が進んでいる中小企業（バックオフィス業務、製造現場等）

- ・ バックオフィス業務をふくめた全社的DX活用

製造業：バックオフィス業務（会計・給与業務、人事労務管理等）から本業（CADデータ作成、生産管理等）、さらには販促（営業用動画作成、WEBサイト管理）までを40代の後継者が担っている。

課題が発見されると、その課題に合わせた専門家やIT事業者を呼び、勉強しながらITツールを導入している。

1. DX推進をめぐる動き

2) 事例紹介

①活用が進んでいる中小企業（バックオフィス業務、製造現場等）

- ・ 製造現場（段ボール製造業）

ものづくり補助金を活用して、IoTを利用した製造工程管理を実施した。

従来：紙の伝票とワークを一緒に回し、従業員が各工程で手書きしていた。

出荷場では、在庫と出荷待ちが混在し、積み残し等が発生していた。

現在：バーコードリーダーを利用し、どの工程にワークがあるかが

事務所からでも把握でき、顧客からの納期間合せに回答しやすい。

出荷スペースでも、バーコードで確認できるため、誤出荷が無くなる。

ファックス受注を、非対面のオンライン受注に切り替え中である。

1. DX推進をめぐる動き

2) 事例紹介

②身の丈DXを実践している小規模事業者（会計、SNS活用、AR活用等）

例) 家族経営で、40代の娘婿が事業承継した製造業

- ・ サブスクの会計ソフトを利用し、自計化している
税理士を使わずに確定申告まで実施、試算表・資金繰表も自作している
- ・ SNS活用は、スマホ活用に慣れている従業員が担当し
ジュエリー着用のモデルにもなっている。
InstagramとECショップを連動させて運用している。
- ・ AR活用は、お客様自身のスマホで、ジュエリーの試着ができるため、
コロナ禍で来店が難しいお客様に対応できる。

1. DX推進をめぐる動き

紹介した3つの企業の共通点

- ① **若手の後継者**がDX活用を牽引している
- ② **補助金**を有効活用している

経済産業省系の補助金：IT導入補助金、小規模事業者持続化補助金
ものづくり補助金、事業再構築補助金 等

埼玉県独自、各市町村が対応している補助金もあるので、
事業者様の用途にあわせて利用していきたい。

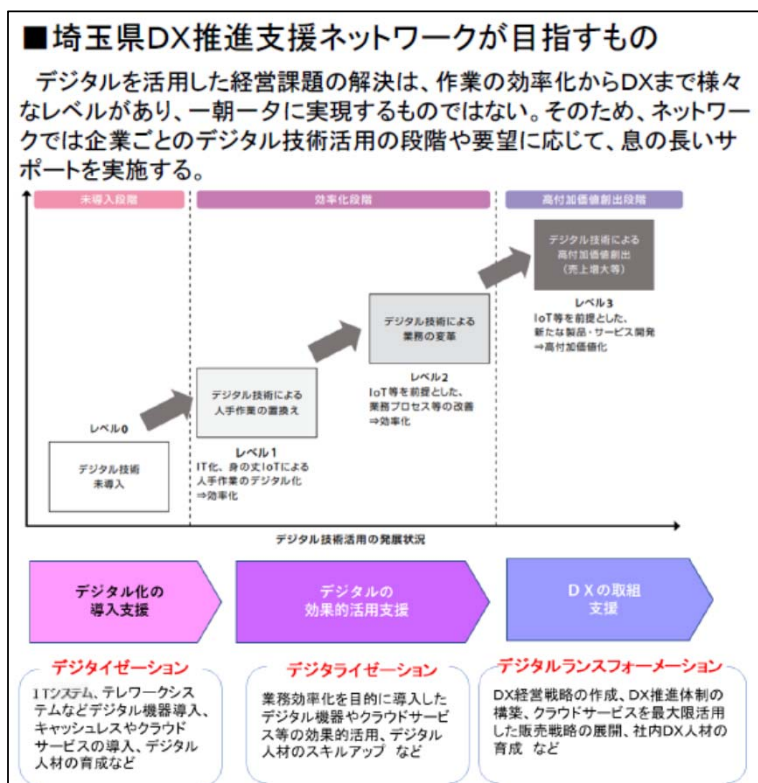
2. まとめ

【取次ぎ能力を高めるためには】

これまで四回でお伝えした内容を踏まえ、以下のとおり進めていただきたい。

- ① 企業の「現状をありのままに」把握していく
- ② 企業の**人員構成や財務状況**を鑑みて、DX活用により経営強化が可能かどうかを検討する
- ③ 経営者の本気度、取引先から必要とされているかも把握する
- ④ 「専門家につなぐことで、企業のDX推進を進めることが可能である」と判断出来たら、ぜひ専門家に繋いでいただきたい

2. まとめ



支援者と専門家で協力し、企業がレベルアップできるように伴走していく。

伴走の目的は「企業の自立」である。

ご視聴頂きありがとうございました。